

平成 19 年
12 月 20 日

病害虫発生予報 1 月号

茨城県病害虫防除所
茨城県植物防疫協会

全ての農作物に残留農薬基準が設定されています！！

薬剤散布の際は周辺作物へ飛散しないよう十分注意しましょう

< 目 次 >

・ 今月の予報

【注意すべき病害虫】

イチゴ：アブラムシ類，ハダニ類	1
促成ピーマン：アザミウマ類	1

【その他の病害虫】	2
イチゴ，促成ピーマン，促成トマト，促成キュウリ	

・ 病害虫ミニ情報

施設野菜に発生する灰色かび病の防除対策について	3
平成 20 年版果樹等病害虫参考防除例（旧防除暦）について	5

・ 今月の気象予報	7
-----------	---

・ テレホンサービス	7
------------	---

029(226)5321

本文に記載された農薬の登録内容は，平成 19 年 12 月 12 日現在のものです。

農薬登録速報については，農林水産省ホームページ「農薬コーナー」
<http://www.maff.go.jp/nouyaku/> 内の登録速報を参照してください。

詳しくは，病害虫防除所へお問い合わせ下さい。

茨城県病害虫防除所 Tel :029-227-2445

予報内容は，ホームページでも詳しくご覧いただけます。

ホームページアドレス <http://www.pref.ibaraki.jp/nourin/byobo/>

・今月の予報
【注意すべき病害虫】

イチゴ

1. アブラムシ類
[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
-	やや多い	県下全域

[予報の根拠]

12月中旬現在、平年よりやや多い発生である。

気象予報によると、向こう1か月の気温は平年並か高いと予想され、発生をやや助長する条件である。

[防除上注意すべき事項]

発生が多くなると防除が困難となるため、発生の少ないうちに防除する。また冬期に発生が見られると、気温の上昇にともない春期の発生が多くなる傾向があるので注意する。

薬剤散布にあたっては、下葉を取り除き、葉裏や葉柄にもよく付着するよう十分な量で丁寧に散布する。また、使用回数、収穫前日数にも十分注意する。

薬剤抵抗性アブラムシ類の出現を防ぐため、系統の異なる薬剤を散布する。

2. ハダニ類
[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
-	やや多い	県下全域

[予報の根拠]

12月中旬現在、平年よりやや多い発生である。

気象予報によると、向こう1か月の気温は平年並か高いと予想され、発生をやや助長する条件である。

[防除上注意すべき事項]

発生が多くなると防除が困難となるため、発生の少ないうちに防除する。また冬期に発生が見られると、気温の上昇にともない春期の発生が多くなる傾向があるので注意する。

薬剤散布にあたっては、下葉を取り除き、葉裏や葉柄にもよく付着するよう十分な量で丁寧に散布する。また、使用回数、収穫前日数にも十分注意する。

薬剤抵抗性ハダニ類の出現を防ぐため、系統の異なる薬剤を散布する。

促成ピーマン

1. アザミウマ類
[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
-	やや多い	鹿行地域

(促成ピーマン アザミウマ類 続き)

[予報の根拠]

12月中旬現在，寄生花率は平年より高く，発生地点率は平年並である。
 気象予報によると，向こう1か月の気温は平年並か高いと予想され，発生をやや助長する条件である。

[防除上注意すべき事項]

アザミウマ類は増殖が速いので，発生の少ないうちに防除を徹底する。なお，アザミウマ類は黄化えそ病を媒介するので注意する。
 薬剤散布は，薬液が葉裏や花にもかかるよう丁寧に行なう。また，使用回数，収穫前日数にも十分注意する。
 薬剤抵抗性アザミウマ類の出現を防ぐため，系統の異なる薬剤を散布する。

【その他の病害虫】

作物	病害虫名	発生予想	発生概況及び注意すべき事項
イチゴ	うどんこ病	発生量: やや少ない	12月中旬現在，やや少ない発生である。
促成ピーマン	うどんこ病	発生量：平年並 ～ やや多い	12月中旬現在，平年並からやや多い発生である。
	タバココナジラミ類	発生量： やや多い	12月中旬現在，やや多い発生である。
	タバコガ	発生量： やや多い	12月中旬現在，やや多い発生である。
促成トマト	灰色かび病	発生量：平年並 ～ やや多い	12月中旬現在，平年並からやや多い発生である。 (P.3～4 病害虫ミニ情報参照)
促成キュウリ	褐斑病	発生量：平年並 ～ やや多い	12月中旬現在，平年並からやや多い発生である。
	アブラムシ類	発生量： やや多い	12月中旬現在，やや多い発生である。
	タバココナジラミ類	発生量： やや多い	12月中旬現在，やや多い発生である。
	ミナミキイロアザミウマ	発生量： やや多い	12月中旬現在，やや多い発生である。
	ミカンキイロアザミウマ	発生量： やや多い	12月中旬現在，やや多い発生である。

施設野菜に発生する灰色かび病の防除対策について

灰色かび病は、野菜、花き、果樹など多くの作物を侵す多犯性の病害です。20 くらいの多湿条件下で発生が多くなり、好適条件が続くとしばしば大きな被害をもたらします。

本年は、12月中旬現在、施設野菜における発生は概ね平年並となっています。また、気象予報によると、向こう1か月の降水量、日照時間も平年並と予想されています。しかし、過去10年間における当所の調査データでは、冬期から春期にかけて本病の発生の増加が見られますので(図1)、以下の基本事項に注意して対策を講じて下さい。

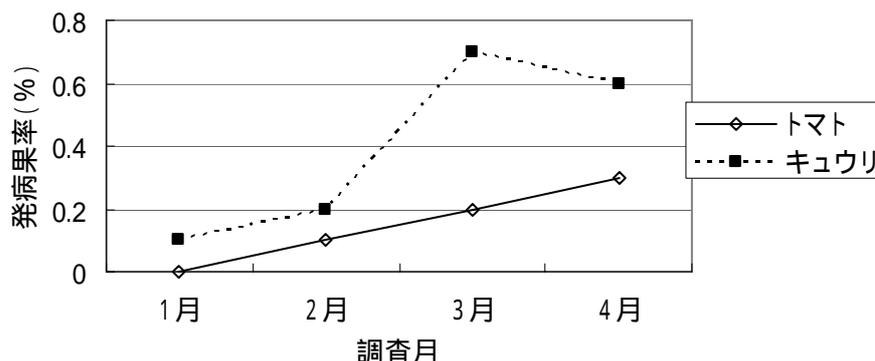


図1 過去10年間における灰色かび病の発病果率の推移

耕種的防除

ハウス内を多湿にしない

灰色かび病はハウス内を多湿状態にしないことが重要です。昼近くなっても作物に水滴が残っている場合は、換気、送風、暖房等による除湿に努めて下さい。また圃場をマルチで被覆すると、土壌表面からの水分蒸散を抑制できるので、湿度の上昇抑制に効果があります。

通風をよくする

葉が繁茂すると通風が悪くなり湿度が高くなりやすく、また殺菌剤がかかりにくくなるため、灰色かび病が発生しやすくなります。適度な葉かきを行い、通風がよくなるよう心がけて下さい。

発病部位の処分

灰色かび病は発病部に生じた胞子が伝染源となるため、発病部位は直ちに取り除いてハウス外に持ち出し、土中深く埋める等の処分をして下さい。

生物的防除

微生物農薬を利用した防除方法のひとつに、ボトキラー水和剤を灰色かび病の発生以前から暖房のダクト内に投入し、灰色かび病の発生を予防する省力的な方法もあります。ハウス内に灰色かび病の発生がない時に、本剤と化学殺菌剤を散布した後、3月下旬までダクト内に本剤を毎日投入します。なお化学殺菌剤の選択にあたっては適否がありますので注意して下さい。通常では1月中はこの方法で防除が可能ですが、2月下旬は灰色かび病の重要な防除時期ですので、化学殺菌剤の散布も行なって下さい。また3月下旬以降に発生を確認したら、ダクト内投入を止め、化学殺菌剤主体の防除に切り替えて下さい。

化学的防除

灰色かび病は、発生初期の防除が重要です。特に発生に適した条件が続いた場合は、圃場内の発生状況をよく確認し、上記の耕種的対策を講じたうえで、薬剤による防除を実施して下さい。主な薬剤は表1のとおりです。薬剤散布の際は耐性菌の出現を避けるために、系統の異なる薬剤のローテーション散布を心がけて下さい。

なお、農薬名(商品名)が異なっても同一の有効成分を有する剤もありますので、有効成分の総使用回数をオーバーしないよう十分注意して下さい。また曇雨天が続く場合は、くん煙剤の利用も検討して下さい。

表1 灰色かび病に登録のある主な薬剤(平成19年12月12日現在)

系統番号 ¹⁾	薬剤名 (有効成分名)	灰色かび病に対する登録の有無				
		トマト	ミニトマト	ピーマン	キュウリ	イチゴ
	サンヨール (DBEDC)					
	ゲッター水和剤 (チオファネートメチル+ジエトフェンカルブ)					
	スミレックス水和剤 (フロシドン)					
	ロブラール水和剤 (イプロジオン)					
	ロブラールくん煙剤 (イプロジオン)					
	フルピカフロアブル (メハニピリム)					
	フルピカくん煙剤 (メハニピリム)					
	ポリオキシシン AL 水和剤 (ポリオキシシン)					
	セイビアーフロアブル 20 (フルジオキシニル)					
	ジャストミート顆粒水和剤 (フルジオキシニル+フェンヘキサミド)					
+	ダイマジン (フェンヘキサミド+イミノクタジン)					
	ベルケート水和剤 (イミノクタジン)					
	カンタスドライフロアブル (ボスカリド)					
	カリグリーン (炭酸水素カリウム)					
	ボトキラー水和剤 (バチルス スプーリス)					

1) 系統番号に対応する系統名は以下のとおり。

：銅剤， ：ジエトフェンカルブ剤， ：ジカルボキシイミド系剤， ：アニリノピリミジン剤，
：抗生物質剤， ：フルジオキシニル剤， ：フェンヘキサミド剤， ：イミノクタジンアルベシ
ル酸塩剤， ：ボスカリド剤， ：炭酸水素塩剤， ：微生物剤

農薬を使用する際は、農薬ラベルに記載の使用方法、注意事項等を確認のうえ使用して下さい。

平成 20 年版果樹等病害虫参考防除例（旧防除暦）について

茨城県では、これまで主要な果樹・特用作物について、『果樹等病害虫防除暦』を作成してきました。近年、食の安全・安心や環境に対する社会的な関心が高まるなかで、県としては環境にやさしい農業・エコ農業を推進しています。こうした状況を踏まえ、平成 20 年版については、果樹等の『環境にやさしい防除技術』と『病害虫参考防除例』（以下、「防除例」）を指導者向けとして作成します。

「防除例」は、平年の病害虫の発生状況を想定した上で、薬剤耐性・抵抗性の回避などを考慮し、防除に効果的と思われる薬剤・使用時期を事例として示していますが、スケジュール散布は、過度の農薬散布や農薬の飛散を防止するためにも避ける必要があります。『環境にやさしい防除技術』を積極的に導入し、その上で、病害虫防除所の予察情報や個々の圃場における病害虫の発生状況を十分確認して、必要に応じて農薬防除を指導してください。

また、農薬を使用する際には、農薬取締法の使用基準の遵守はもとより、周辺作物に農薬が飛散し、食品衛生法の基準を超えて農薬が残留することがないように、農薬の飛散防止について一層の配慮が求められています。そのため「防除例」には農薬を使用する際のラベルの確認と周辺への農薬飛散に対する注意を促す内容の文を入れました。

作物ごとの主な改正点は以下のとおりです。なお、改正のあった箇所については、特に注意して農薬防除の指導にあたって下さい。

赤ナシ無袋栽培

- ・収穫開始日：県内主産地の収穫開始日を考慮して、8 月 13 日から 8 月 5 日に変更しました。
- ・4 月上旬（注意事項欄）：近年、発生が多くみられている黒星病の防除対策として、「催芽期～落花期の防除を徹底する」という文を追加しました。
- ・6 月上旬（注意事項欄）：カメムシ類防除薬剤のうち、スプラサイド水和剤は薬害が懸念されるため、またエルサン水和剤 40 は収穫前日数が 90 日に変更される予定のため削除しました。

赤ナシ無袋栽培・ハウスナシ・ナシトライ事例

- ・4 月下旬・5 月上旬：顆粒水和剤への製剤改良のため、スコア水和剤 10 をスコア顆粒水和剤に変更しました。

露地巨峰

- ・4 月下旬・5 月上旬（注意事項欄）：近年問題となっている晩腐病対策のため、「晩腐病の分生子の飛散は、5 月から開始されるので初期防除を徹底する。（飛散開始前 3 日間の条件 平均気温：15 以上、最低気温：10 以上、合計降水量：10mm 以上）」を追加しました。また、晩腐病防除には雨よけ栽培が効果的であるので、「晩腐病が多発する園では、雨よけ栽培の導入を検討する」を追加しました。
- ・幼果期（小豆粒大）：コナカイガラムシ類・チャノキイロアザミウマ防除のため、スタークル顆粒水溶剤を追加しました。

露地巨峰・雨よけ巨峰

- ・幼果期，7 月上旬：収穫前日数を十分に確保するため、アミスター10フロアブルとホライズンドライフロアブルを入れ替えました。

ウメ

- ・5 月中旬：顆粒水和剤への製剤改良のため、スコア水和剤 10 をスコア顆粒水和剤に変更しました。

リンゴ

- ・落花 10～20 日後：モモチョッキリゾウムシの適期防除のため，図 1 のように変更しました。
- ・9 月上旬～中旬：収穫前日数を十分に確保するため，収穫 14 日前までの MR・ジョーカー水和剤を収穫前日までのスタークル顆粒水溶剤に変更しました。

チャ

- ・9 月上旬～10 月下旬：多くの種類の病害虫に対して効果的に防除を行えるよう，図 2 のように変更しました。

その他

- ・カキ，クリについては大きな変更点はありません。

図1 リンゴ病害虫参考防除例変更点

平成19年版

時期	対象病害虫	薬剤名
落花10日後～ 落花20日後 (5月中旬～下旬)	黒斑病 点星落葉病 赤星	ブロード水和剤
落花30日後 (6月上旬)	アブラムシ類 シンクイムシ モモチョッキリゾウムシ ギンモンハモグリガ キンモンホソガ 斑点落葉病 黒星	モスピラン水溶剤 バルノックスフロアブル

平成20年版

時期	対象病害虫	薬剤名
落花10日後～ 落花20日後 (5月中旬～下旬)	アブラムシ類 シンクイムシ モモチョッキリゾウムシ ギンモンハモグリガ キンモンホソガ 赤斑病 黒星落葉病	モスピラン水溶剤 バルノックスフロアブル
落花30日後 (6月上旬)	アブラムシ類 シンクイムシ ギンモンハモグリガ キンモンホソガ 斑点落葉病 黒星病・黒点病 褐斑病 すす点病・すす斑病	ダントツ水溶剤 ユニックスZ水和剤

図2 チャ病害虫参考防除例変更点

平成19年版

時期	対象病害虫	薬剤名
秋芽生育期 (9月上旬～中旬)	チャノミドリヒメコバイ幼虫	アブロード水和剤
	チャノココクモンハマキ チャハマキ チャノホソガ	エンセダン乳剤
	炭も疽病	バイレトン水和剤25
秋芽生育停止期 (10月下旬)	カンザワハダニ	コテツフロアブル

平成20年版

時期	対象病害虫	薬剤名
秋芽生育期 (9月上旬～中旬)	チャノミドリヒメコバイ チャノキイロアザミウマ チャノホソガ	モスピラン水溶剤
	炭も疽病 網も疽病 新梢枯死症	オンリーワンフロアブル
秋芽生育停止期 (10月下旬)	チャノココクモンハマキ チャハマキ チャノホソガ	エンセダン乳剤
	カンザワハダニ	マイトコーネフロアブル

・今月の気象予報

関東甲信地方 1 か月予報

(予報期間 12月15日から1月14日)

気象庁(12月14日 発表)

< 向こう1か月の気温, 降水量, 日照時間の各階級の確率(%) >

[確率]

要素	予報対象地域	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
気温	関東甲信全域	20	40	40
降水量	関東甲信全域	30	40	30
日照時間	関東甲信全域	30	40	30

[概要]

天気は数日の周期で変わるでしょう。

向こう1か月の平均気温は平年並または高い確率ともに40%です。

< 1週目の予報 > 12月15日(土曜日)から12月21日(金曜日)

気温 関東甲信地方 平年並の確率40%

< 2週目の予報 > 12月22日(土曜日)から12月28日(金曜日)

気温 関東甲信地方 高い確率60%

< 3週目から4週目の予報 > 12月29日(土曜日)から1月11日(金曜日)

気温 関東甲信地方 低い確率40%

・テレホンサービス

下記の情報を24時間提供しています。リアルタイムな情報を提供するために、病害虫の発生状況等によっては内容を変更することがあります。

電話番号：029(226)5321

1月上旬 農薬の安全使用と保管管理について

1月下旬 施設野菜病害虫の発生現況と防除対策について

農薬を使用する際は

- 1 使用する農薬のラベルを必ず確認し、適用作物、使用方法、注意事項等を守りましょう。
- 2 散布時には、周辺作物に飛散(ドリフト)しないよう注意しましょう。
- 3 農薬の使用状況を正確に記録しましょう。
- 4 使用後は散布器具やホース内等に薬液を残さず、良く洗浄しましょう。